

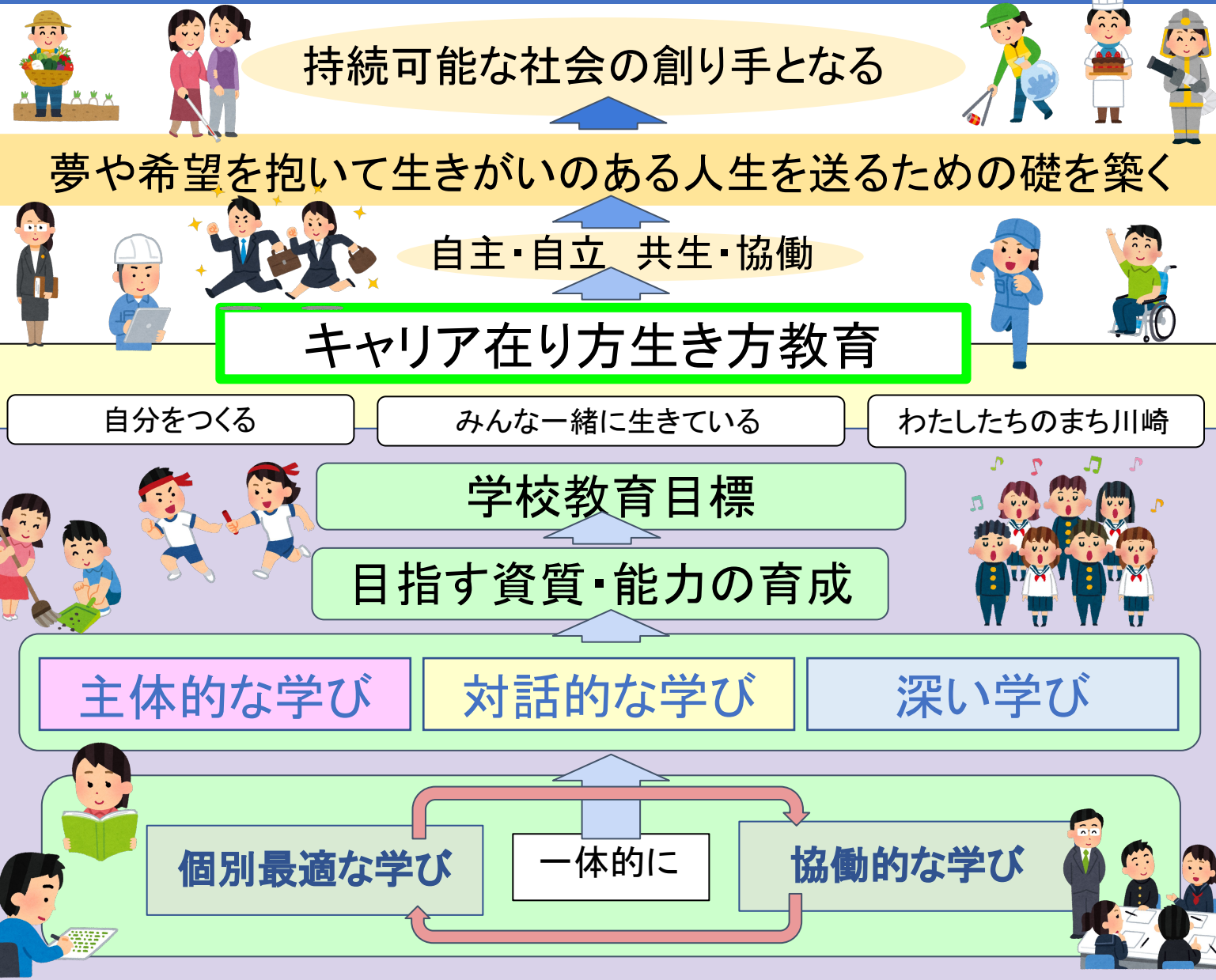
5 かわさきの豊かな学びにつながる

- 1 「キャリア在り方生き方教育」&「ステップ2」「ステップ3」
- 2 「キャリア在り方生き方教育全体計画」への位置付け
- 3 「キャリア在り方生き方教育」の視点からの「ステップ2」
- 4 かわさき共生 * 共育プログラム × GIGAスクール構想ステップ2
- 5 人権尊重教育とGIGA端末の活用



5-1-1「キャリア在り方生き方教育」&「ステップ2」「ステップ3」

- 社会的・職業的自立
- かわさき教育プラン基本理念
- 基本目標
- 社会に開かれた教育課程
- 学校教育目標
- 各校のキャリア在り方生き方教育で目指す姿
- 授業改善の視点
- 児童生徒の学びの視点



5-1-2「キャリア在り方生き方教育」&「ステップ2」「ステップ3」

「キャリア在り方生き方教育」と「かわさきGIGAスクール構想」

「キャリア在り方生き方教育」は、すべての教育活動を通して行います。「かわさきGIGAスクール構想」においても、「キャリア在り方生き方教育」における「自分をつくる」「みんな一緒に生きている」「わたしたちのまち川崎」の3つの視点で取り組むことが大切です。

「キャリア在り方生き方教育」と「ステップ2」

「ステップ2」では、「既習や他者とつながることで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善ができ、資質・能力をより確実に育成する」ことを目指します。各教科等の目標を目指しつつ、各校の「キャリア在り方生き方教育」全体計画で設定している「育成を目指す姿」につなげ、学校教育目標の具現化につなげていくことが大切です。

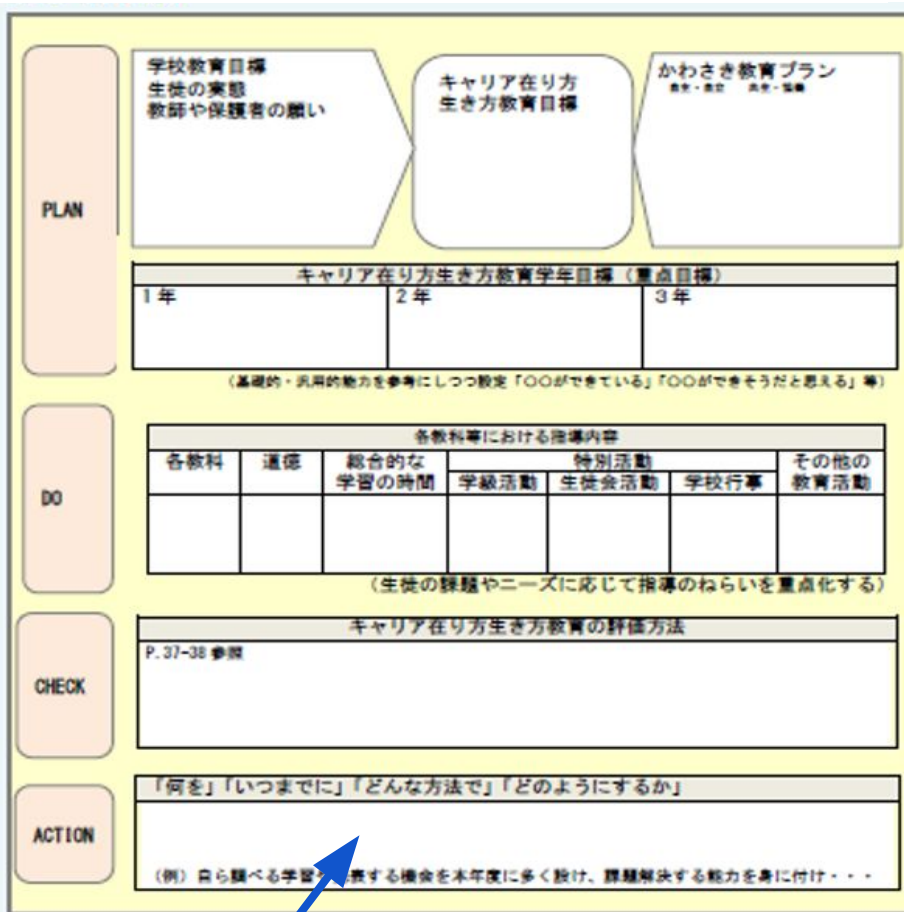
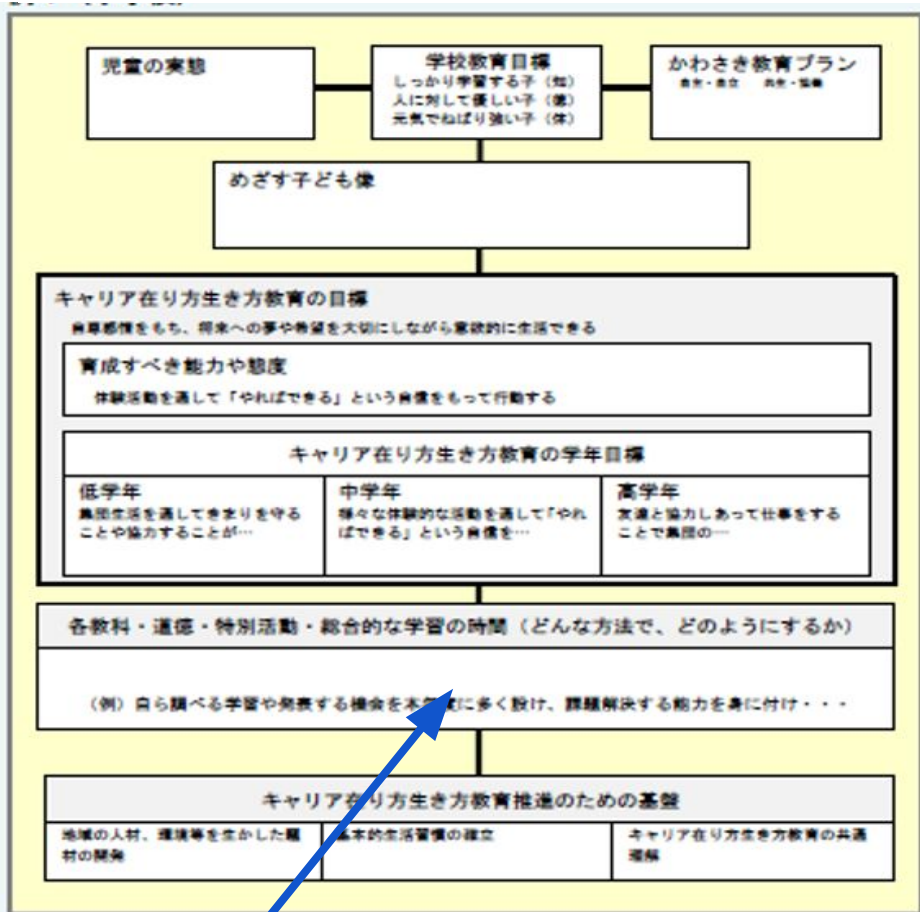
「キャリア在り方生き方教育」と「ステップ3」

「ステップ3」では、「各教科等の学びが、他教科等や生活につながることで、社会課題の解決や一人一人の夢の実現に活かす」ことを目指します。各校の「キャリア在り方生き方教育」では、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して「カリキュラム・マネジメント」を行い、一人一人が夢や希望をもち、将来の社会的・職業敵自立に必要な能力や態度を育てるとともに、「持続可能な社会の創り手」の育成を目指します。

「ステップ2」の段階から「ステップ3」を見据え「キャリア在り方生き方教育」の視点でGIGA端末を活用しましょう。

5-2「キャリア在り方生き方教育全体計画」への位置付け

キャリア在り方生き方教育「全体計画」にGIGA端末活用の視点を！



キャリア在り方生き方教育の「全体計画」を作成する際に、各学校で育成を目指す資質・能力に向けてGIGA端末を活用する視点を書き加えて可視化しておくことが大切です。

端末を活用することで、どのような資質・能力を育てていくのか、各教科等の中では、どのように活用していくことが効果的なのか、共通理解を図り、全体計画に位置付けましょう。

「どのようにGIGA端末を活用するか」

「どのようにGIGA端末を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現につなげるか」


キャリア在り方生き方教育の「全体計画」に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けたGIGA端末の活用の視点を位置付け、教職員の共通理解を図ります。



5-3-1「キャリア在り方生き方教育」の視点からの「ステップ2」

1. 「主体的・対話的で深い学び」×「自分をつくる」の例

ポートフォリオとしてクラウドの情報を活用

候補		
マイドライブ	 4年学活211018「係活動」：新聞係活動メモ	自分
共有ドライブ	 4年国語211015「ごんぎつね」	自分
共有アイテム	 4年国語211020「ごんぎつね」②	自分
最近使用したアイテム	 4年国語211030「ごんぎつね」学習の振り返り	自分
スター付き	 4年算数211015「面積」	自分
ゴミ箱	 4年社会211115「神奈川県の特徴」	自分
保存容量	 4年総合211131「学習発表の感想」1班	自分
B使用中	 4年体育211220幅跳びの記録【自分】	自分

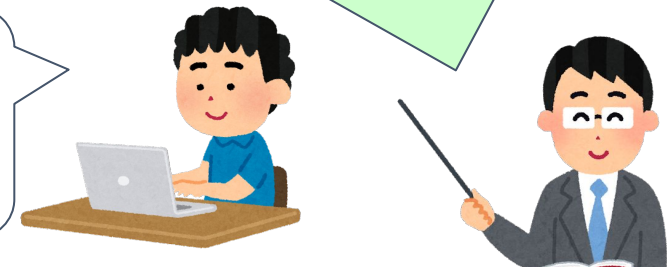
クラウドに保存されている過去の学びの記録や振り返りの記述などをもとに、新たな課題解決へのヒントを探したり、過去の学びと今の学びを結びつけて、新たな考えを構築したりします。

自分の学びの記録を情報として活用することで、情報活用能力の向上へとつなげていきます。

「自分をつくる」の視点につながります。

保存の際に、「教科名」「日時」「単元」などを組み合わせるなど、**検索しやすくする方法**を身につけていくことが大切です。

前に学習した考え方を生かせば、解決できそうだな。



5-3-2「キャリア在り方生き方教育」の視点からの「ステップ2」

2. 「主体的・対話的で深い学び」×「みんな一緒に生きている」の例

端末を活用して互いの考えから学ぶ

〇〇さんの考え方は、僕にはなかったな。どうしてそう考えたのですか。

△△さんの考え方と私の考えは似ていると思いました。書いていることについてもう少し詳しく教えてもらえますか。

友達の考えから、自分の考え方が広がったな。



端末を活用して互いの考えを共有しながら伝え合ったり、話し合ったりする活動を通して、学び合う姿勢を育てていくことが大切です。

単に学習場面で端末を活用するだけでなく、互いの考えのよさに気付いたり、自分の考えに生かしたりしながら、共生・協働の精神を培うことで「みんな一緒に生きている」の視点につながります。

端末を活用する際、端末のよさを生かしつつ、**相手意識をもって学び合う**ことが大切です。話し合いを活性化させたり焦点化させたりするための手段として使用します。



5-3-3「キャリア在り方生き方教育」の視点からの「ステップ2」

3. 「主体的・対話的で深い学び」×「わたしたちのまち川崎」の例

端末を活用して社会とつながる



1人1台の端末を利用することで発表等で端末を活用することが容易になりました。

保護者や地域の方に、学んだことや考えたことを発信する機会を設けることも大切です。社会へ自分たちの考えを発信し、社会参画意識を高めることで、「わたしたちのまち川崎」の視点につながります。

市内企業やNPO法人などの方を招いて、SDGsの視点で地域をよりよくするための提案をする活動を行った学校もあります。**地域社会に自分の考えを伝えることで社会参画の意識を醸成します。**



5-4-1 かわさき共生 * 共育プログラム × GIGAスクール構想ステップ2

1. 「かわさき共生 * 共育プログラム」の充実

かわさきGIGAスクール構想ステップ2の実現に向け、

「児童生徒のよりよい人間関係づくり」が

ますます大切です。

GIGAスクール構想の実現に向け「ICT活用」と「児童生徒の人間関係づくり」を一体的に捉えて充実させていくことが大切です。

本市では、児童生徒の人間関係づくりに向け、平成22年度から「かわさき共生 * 共育プログラム」に取り組んでいます。GIGAスクール構想の充実に向け、「かわさき共生 * 共育プログラム」を成す「効果測定アンケート」と「エクササイズ」の実践においてGIGA端末を効果的に活用しましょう。

**効果測定アンケートの実施と
GIGA端末活用による
積極的な児童生徒の状態把握**

**エクササイズの実践と
GIGA端末活用による
よりよい人間関係づくり**

「学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。

(学習指導要領解説(総則編)抜粋)

「個別最適な学び」の向けて

「これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援すること」

「協働的な学び」の向けて

「教師と子供の関わり合いや子供同士の関わり合い(中略)など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まるものである。」

(中央教育審議会 答申より抜粋)

5-4-2 かわさき共生 * 共育プログラム × GIGAスクール構想ステップ2

2. 効果測定アンケートの実施とGIGA端末の活用

効果測定アンケートの実施をGIGA端末で行うことができます。

GIGA端末で回答するメリット

用紙の印刷、回答入力の必要が無い

児童生徒が回答する方法が増える

**これまで以上に積極的に児童生徒の状態を把握し
学級経営に生かしましょう！**

児童生徒が安心して取り組める環境を作りましょう。

GIGA端末で回答する場合も、児童生徒が安心して回答できるようにすることが大切です。

- 素直な気持ちで答えてよいことを伝える。
- GIGA端末の画面が後ろから見えることが無いように、画面を倒して回答できることを伝える。
- 回答が担任のもとにしっかりと届いていることを伝える。
- 心配なことは、いつでも相談してもよいことを伝える。 など

児童生徒の様子に合わせて、様々な工夫ができそうですね。



「効果測定フォーム化」
令和3年度から、GIGA端末で効果測定アンケートの回答ができるようになりました。効果測定アンケートの実施、集計の仕方の詳細はこちらをクリックしてください。
[【GIGA端末での効果測定アンケートの手引き】](#)

「先生方の声」
「2回目になると、操作に慣れて集中して取り組んでいました」
「回答を送信できたか心配をする様子が見られの『送られてるよ』と声を掛けました」
「じっくり取り組めるようにするために、文章を読み上げました」 など

5-4-3 かわさき共生 * 共育プログラム × GIGAスクール構想ステップ2

2. 効果測定アンケートの実施とGIGA端末の活用

効果測定の結果活用と児童生徒の日頃の姿の観察

効果測定アンケートを用いて児童生徒の様子を日常的に把握しましょう。「効果測定」や「面接法」、そして下記のようにGIGA端末を活用する様子も含めた「行動観察」を合わせて状態把握に努めます。

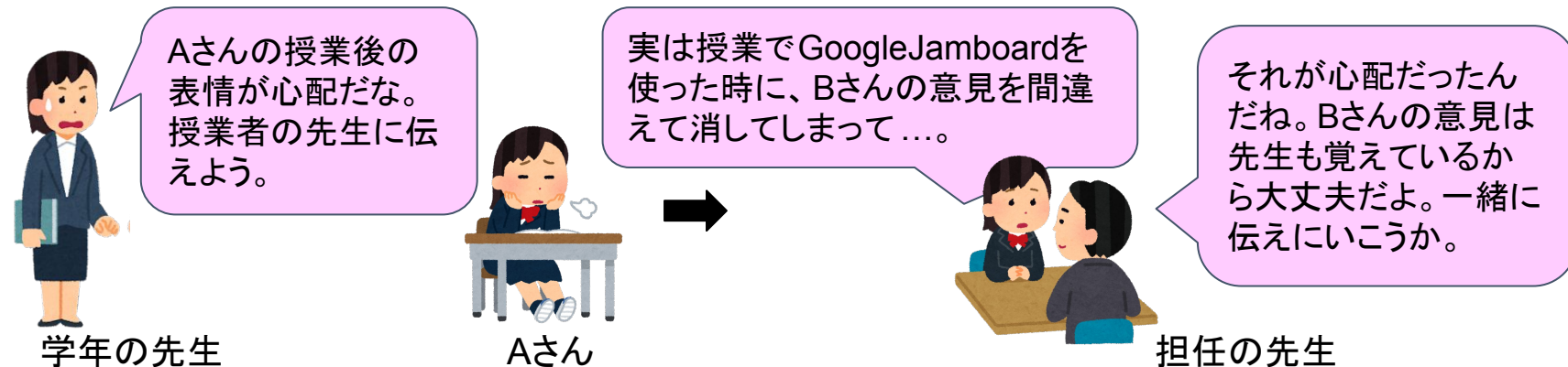
- 休み時間や掃除の時間に見える姿
- GoogleJamboard等で、共同編集をしている時の参加の様子から見える姿
- Google Classroomでのコメントや資料の受け答えや表情から見える姿

GIGA端末を使う場面でも新しい一面が見えてきます。



図は【効果測定リーフレット】から抜粋

少しでも気になる点がある時は、教職員間で情報を共有し、児童生徒の話を聞きましょう。



話を聞く時は「**受容傾聴の姿勢**」が大切です。これは児童生徒の**SOSの発見**にもつながります。

参考 文部科学省「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」2009年

5-4-4 かわさき共生 * 共育プログラム × GIGAスクール構想ステップ2

3. エクササイズの実践とGIGA端末の活用

豊かな人間関係づくりにつなげるためのGIGA端末の活用

エクササイズは、

自分づくり

友達づくり

仲間づくり

の3つの内容があります。

そして、エクササイズの活動の流れは、

導入

展開

分かち合い

となります。

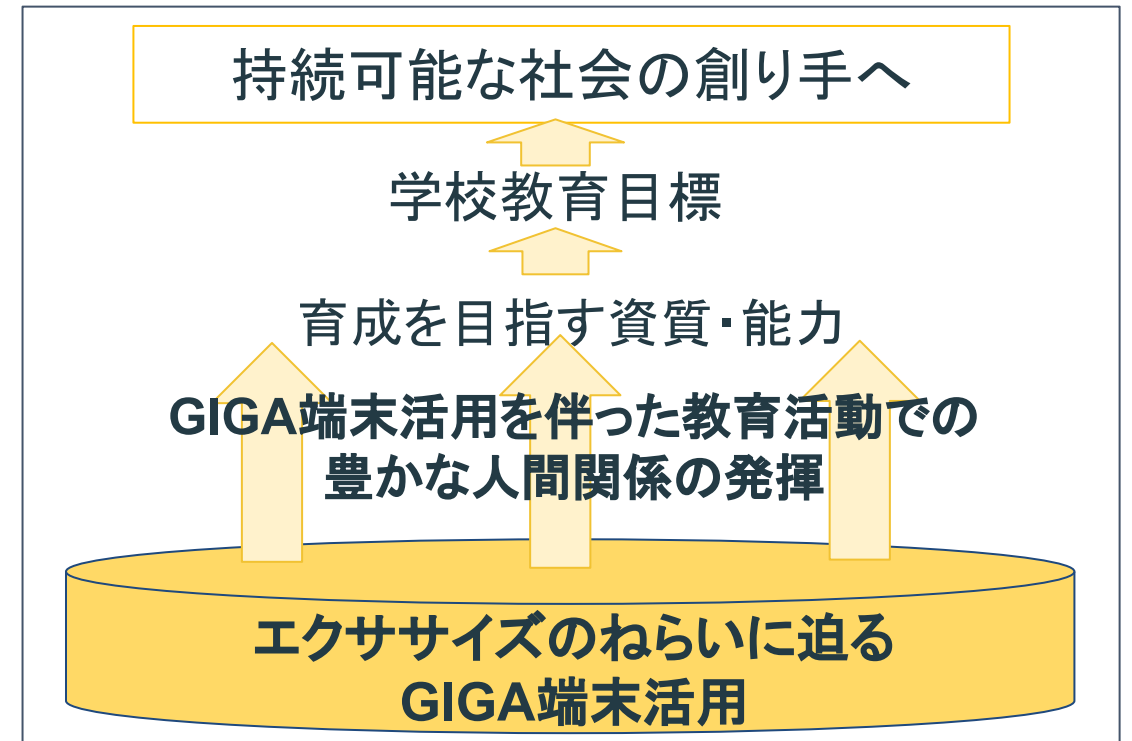
上に示した内容は、エクササイズの基本であり、これまでと変わりません。

右の図は、エクササイズで育まれた人間関係が様々な教育活動で発揮されていく様子を表したものです。

GIGA端末の機能のよさを生かし、下記の視点から活用場面を設定しましょう。

エクササイズのねらいにより迫ることができるようにする視点

豊かな人間関係を授業など様々な教育活動でも発揮できるようにする視点



5-4-5 かわさき共生 * 共育プログラム × GIGAスクール構想ステップ2

3. エクササイズの実践とGIGA端末の活用

「自分づくり」につなげるためのGIGA端末の活用例

自分づくり 「ふわふわ言葉とチクチク言葉」の例

展開 場面

児童生徒の気付きを引き出し、ねらいに迫るための活用

友達の考えをより広く知って、気付きを引き出したいので、ふわふわ言葉とチクチク言葉を一人一人が考えて、**Google Jamboard**に記入してみよう。



自分づくり 「自分を見つめよう」の例

他の 場面

他の場面の教育活動に広げるための活用

キャリア・パスポートで、自分のめあてを立てたり、よさを見つめたりする時に活用できるようにするために、**ワークシート**に**GIGA**端末で入力して保存できるようにしてみよう。



5-4-6 かわさき共生 * 共育プログラム × GIGAスクール構想ステップ2

3. エクササイズの実践とGIGA端末の活用

「友達づくり」につなげるためのGIGA端末の活用例

友達づくり 「上手な断り方を学ぼう」の例

展開 場面

児童生徒の気付きを引き出し、ねらいに迫るための活用

様々な場面でのコミュニケーションの取り方を経験し、授業などの場面でも発揮できるようにしたいので、実際の言葉のやり取りの他に、**共同編集機能でコメントを送り合ったり、Google Meetでやり取りをしたりする活動に入れて、違いを感じられるようにしよう。**



※上記のエクササイズの外に「ちゃんと聞いてよ」「聞き上手・話し上手になろう」「上手な意思の伝え方」でも、同じような活用が考えられます。

エクササイズの中でもできる情報モラル教育

GIGA端末を活用する中で、人とつながる良さを実感するには、児童生徒に情報モラルの理解を深める必要があります。エクササイズでGIGA端末を活用する際には、情報モラルチェックリストを参考にしながら、活動の中で指導をするようにしましょう。

(情報チェックリストを参考にしてください)

5-4-7 かわさき共生 * 共育プログラム × GIGAスクール構想ステップ2

3. エクササイズの実践とGIGA端末の活用

「仲間づくり」につなげるためのGIGA端末の活用例

仲間づくり 「シャッターチャンス」の例

分かち合
いの場面

成功体験をより実感し、ねらいにより迫ることができるようにするための活用

グループで合意形成が成されて、一人一人が役割をきちんと果たしている様子を、自分たちでも振り返られるように、**シャッターチャンスのポーズをカメラ機能で撮影**して、頑張ったことを分かち合おう。

GIGA端末を活用する際は下記の点にも留意が必要です。

- ・デモンストレーションはより丁寧に行いましょう。
- ・活動の時間に余裕をもたせましょう。
- ・情報スキルは学年に応じたものを取り入れるようにしましょう。

エクササイズの学びを日常化・定着化する

エクササイズを通して学んだスキルや気づき、そしてGIGA端末を使って人とやりとりをする良さも含めて、日常場面で発揮されるよう促すことが大切です。



5-5-1 人権尊重教育とGIGA端末の活用

1. 学校教育における人権尊重教育

かわさき教育プラン **人権尊重教育は、すべての教育活動の基盤である。**

人権尊重の精神に立つ学校づくり

学校においては、教科等指導、生徒(児童)指導、学級経営など、その活動の全体を通じて、人権尊重教育の精神に立った学校づくりを進めます。

人権が尊重される人間関係づくり
互いのよさや可能性を認めあえる仲間



人権尊重の視点に
立った学校づくり

人権が尊重される環境づくり
安心して過ごせる学校、教室



人権が尊重される学習活動づくり
一人一人が大切にされる授業
互いのよさや可能性が発揮できる取組



人権尊重教育の目標

人権尊重教育は、一人一人の発達段階に応じ、人権の意義、内容の重要についての理解し「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」(人権感覚)ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるようにします。

- **人権感覚を身に付ける: [自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること]ができる**
- **それが様々な場面での具体的な態度や行動に現れるようにする**

例えば、技能面的側面の資質・能力: 他人の立場に立つ想像力、コミュニケーション能力、人間関係を調整する能力 等

参照: 文部科学省「人権教育指導方法等の在り方について 第3次とりまとめ」平成20年

5-5-2 人権尊重教育とGIGA端末の活用

2. 人権尊重教育の指導方法とGIGA端末の活用

人権感覚を育成する基礎となる価値的・態度的側面（自己尊重の感情、多様性の尊重・共生等）や技能的側面の資質・能力（他人の立場に立つ想像力、コミュニケーション能力、人間関係を調整する能力等）に関しては、**児童生徒が自らの経験を通してはじめて学習できるもの**です。児童生徒が自らが主体的に、学級の他の児童生徒とともに学習活動に**参加**し、**協力的**に活動し、**体験**する学習過程を通してはじめて身に付くといえます。

協力的な学習

学級や学習集団全員が**協力しつつ共同で進める学習**であることが大切。こうした協力的な学習は、生産的・建設的に活動する能力を促進させ、結果として学力の向上にも影響を与えられている。

参加的な学習

一人一人の児童生徒が、**学習に主体的に参加できるように工夫**することが大切。児童生徒は参加を通して他者の意見を傾聴し、他者の痛みや苦しみを共感し、他者を尊重し、自分自身の決断と行為に対して責任を負う諸能力を発展させる。

体験的な学習

具体的な活動や体験を通して、**問題を発見したり、その解決法を探究したりする**など、生活上必要な習慣や技能を身に付ける学習。体験的な学習や問題解決的な学習は、児童生徒が自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ態度を身に付けるとともに、自らの心と頭脳と体とを働かせて、試行錯誤しつつ、身をもって学ぶことで、生きた知識や技能を身に付けることができる。

学習例

参加的な学習

協力的な学習

体験的な学習



①「子どもの権利条例」を知るために、**Google サイト「人権尊重教育資料」**

<https://sites.google.com/kawasaki-edu.ed.jp/jinkensiryou/>を活用し、「みんなで考えよう川崎市子どもの権利条例」を視聴。

①「拉致問題」を知るために、**Google サイト「人権尊重教育資料」**

<https://sites.google.com/kawasaki-edu.ed.jp/jinkensiryou/>を活用し、**アニメ「めぐみ」**を視聴。
(他にも「ハンセン病問題を知る」の視聴可能)



②誰もが「権利」をもっていることを確認するために、「安心して生きる権利」を考えて**Google Jamboard**に記入。例えば、寝る権利、学ぶ権利、遊ぶ権利など、たくさんの権利があるが、**どれも必要な権利であり、誰もが権利をもっている大切な存在であることを確認する**。

②同じ10代で拉致された横田めぐみさんが奪われた「権利」を考えるために、**Google Jamboard**に記入。めぐみさんも「部活を楽しむ」「恋をする」といった**自分たちと変わらない権利をもっていたことに気付く**。



③学習を振り返り、子どもの権利や拉致問題への考えを深める。
その後、学校行事や委員会活動、学級活動などを通して、**自他の権利を尊重することを体験的に学ぶ**。

